

# 平成28年度看護学教育ワークショップ ワーク“知る”

## 看護系大学学士課程における臨地実習の現状 並びに課題に関する調査研究

平成27年度 文部科学省大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業

### ● 責任者

高田早苗（日本赤十字看護大学）

### ● 高等教育行政対策委員会

### ● 看護学教育質向上委員会

### プロジェクト委員会

**上泉 和子**（青森県立保健大学）

高田 早苗（日本赤十字看護大学）

太田 喜久子（慶応義塾大学）

工藤 美子（兵庫県立大学）

坂下 玲子（兵庫県立大学）

佐々木 幾美（日本赤十字看護大学）

鈴木 久美（大阪医科大学）

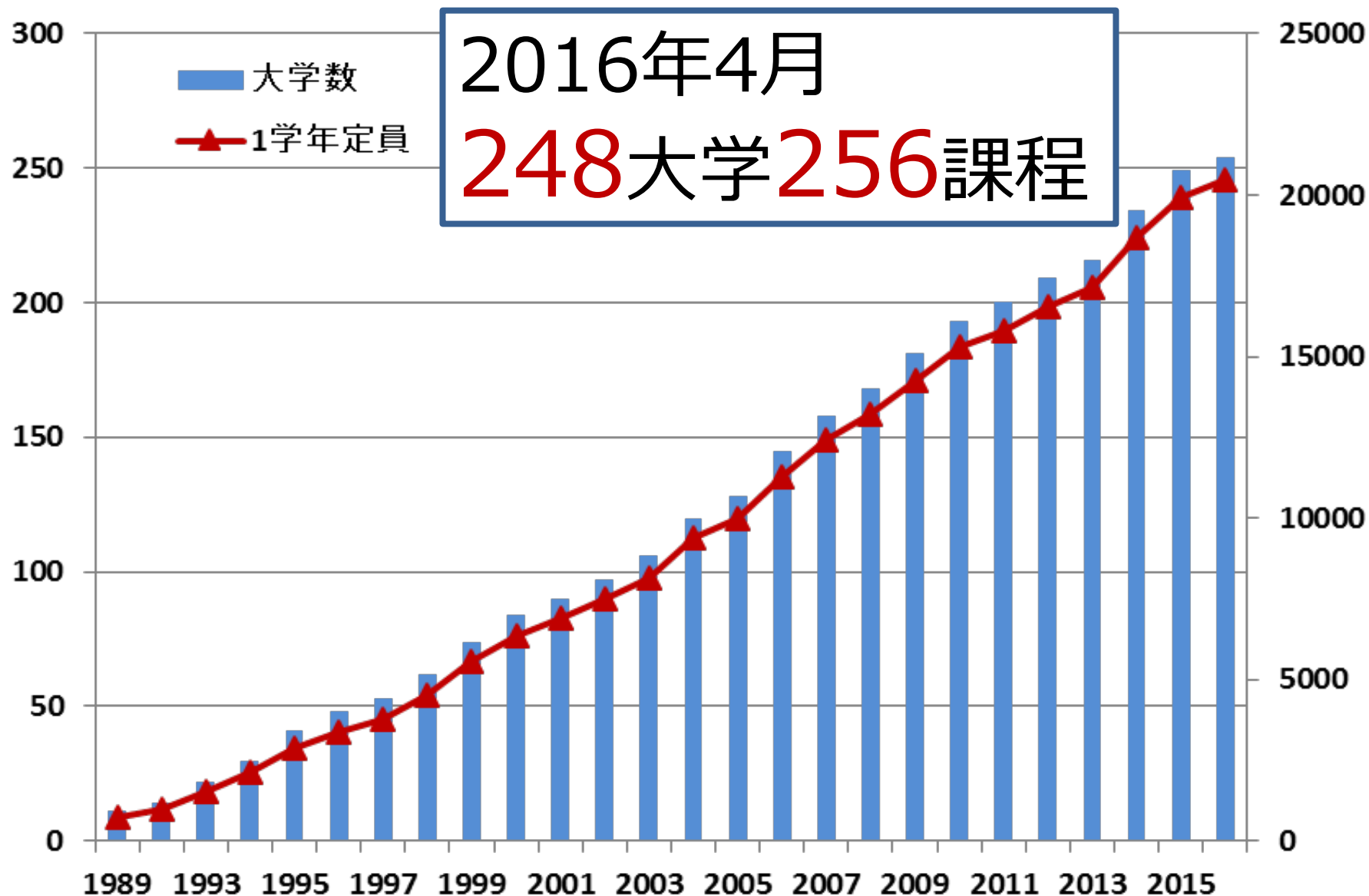
三浦 英恵（東京医科歯科大学）

村上 明美（神奈川県立保健福祉大学）



2016年10月27日（木）

# 看護系大学推移



# 背景

- 看護系大学の急激な増加の背景の中で、**看護教育の質保証**に重大な関心が寄せられている
- 近年の少子高齢化や医療の高度化複雑化に対応する医療機関の機能分化等を含む再編も関連して、**実習施設の確保に困難**
- 患者の権利への配慮や医療安全確保の対策が強化される中で、実習における**身体侵襲性の高い看護技術を実施する機会が限られる**
- 医療提供体制の見直しが進み、**病院完結型から地域在宅完結型**へと仕組みが変わっていく
- 看護専門職に**期待される臨床（地）実践能力の変化**→個別技術の提供から、多職種連携のなかで個々の患者利用者のQOLや生活の成り立ちに焦点をおく調整的機能の発揮へ
- **看護学実習のあり方の見直し**が迫られている

## 研究目的

本会では、会員校である看護系大学の協力を得て、看護学士課程教育における**臨地実習の現状と課題を明らかにし、質保証の観点から看護学実習の基準を策定することを目的として本調査に取り組んだ。**

本研究は、地域包括ケアの時代にむけた新たな臨地実習の在り方についての提言にむけて、看護系大学学士課程教育における臨地実習に関わる実態および課題を明らかにすることを目的とした。

## 研究対象

日本看護系大学協議会の会員校241大学248課程の大学とした。

# 調査方法

## 1. シラバス調査

- 1) 調査対象 ①全実習科目のシラバス（平成27年度分）、②教育課程表（授業科目一覧）、③成人看護学系の実習要項
- 2) 調査内容 ①科目構成、②単位数・時間数・配当年次・履修要件、③教育目的・目標、④実習内容、⑤実習方法、⑥評価方法

## 2. Webによるアンケート調査

- 1) 調査内容 ①大学の基礎情報、②看護学実習の指導体制、③看護学実習内容および学生の実習への取り組み状況、④実習施設との連携と確保、⑤看護学実習における課題や問題の観点から作成
- 2) 対象とした実習は、看護師、助産師、保健師に関わる全ての実習とし、養護教諭に関わる実習や専攻科および大学院で実施している実習を除外
- 3) 日本看護系大学協議会の会員校の責任者宛に依頼文と作成した質問項目見本を一緒にメールにて配信し、自由意思のもと、ホームページ上の専用Webページで記名による回答を依頼した。

# 倫理的配慮

日本赤十字看護大学倫理審査委員会にて承認を得た

1) WEB調査への回答は **記名** (大学名、所属名、担当者名) であるが、プライバシーの保護は厳重に行う。

シラバス調査との連結を可能にするため、および次年度以降の調査へつなげるためである。

2) データは**連結可能匿名化処理**をして集計する。

3) Web調査のデータ入力作業は、**プライバシーポリシーを明示している業者に入力を委託し、機密保護に関する協定書**を提出してもらった。シラバス調査の入力作業は、大学院生等のアルバイトに委託をする。シラバス内容については、HP等で公開されている内容なので、特に入力業者との倫理的な事項に関する誓約書は結ばない。

4) 本調査結果は、文部科学省への報告書、日本看護系大学協議会の会員校への報告書送付、報告会(2016年3月開催)で公開、日本看護系大学協議会のホームページ上で公開する。

# 【シラバス調査】

- 各大学に①～③の提出依頼
  - ①全実習科目のシラバス（平成27年度版）
  - ②教育課程表（授業科目一覧）
  - ③成人看護系の実習要項（平成27年度版）

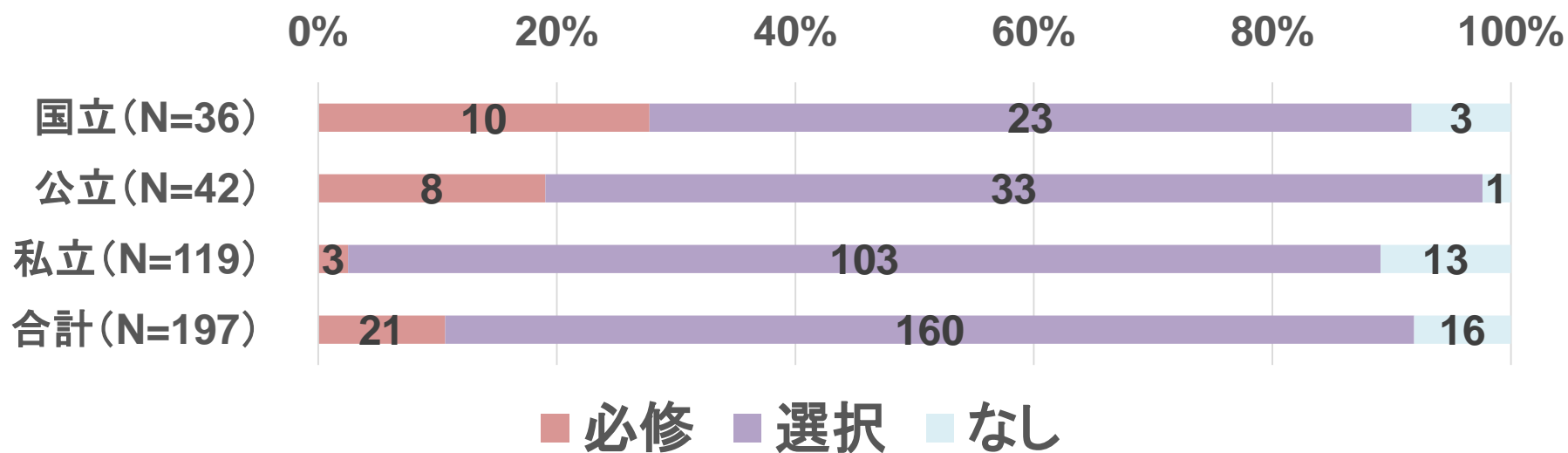


- 平成27年度は、②教育課程表（授業科目一覧）に記載された内容を中心に分析を行った。
- 協力が得られた大学は197校（79.8%）

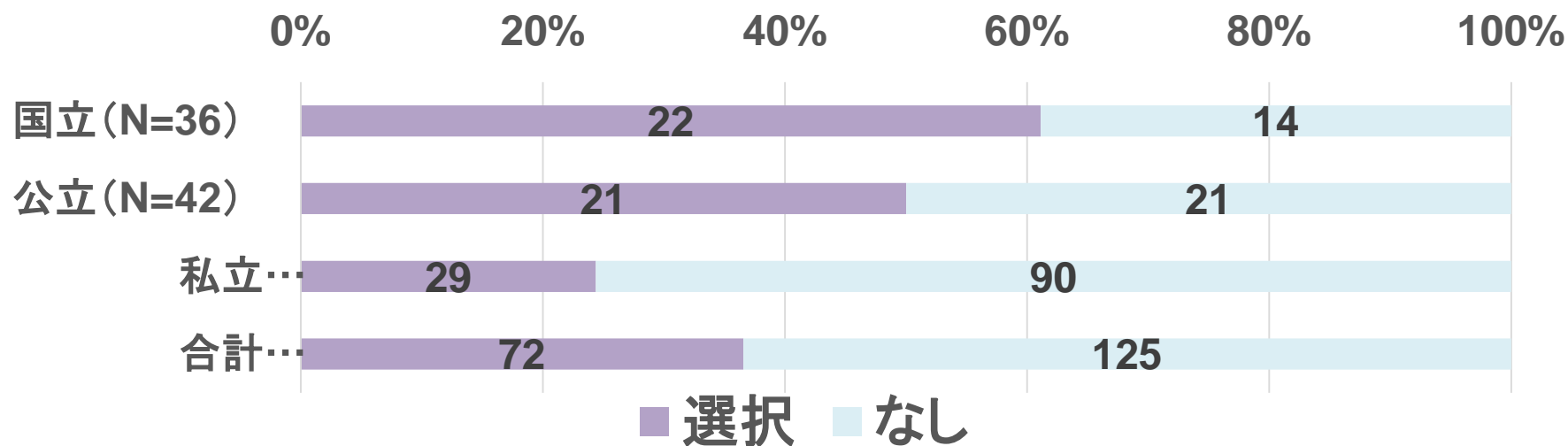
	国立 (N=44*)	公立 (N=48)	私立 (N=156)	合計 (N=248)
回収数	36	42	119	197
回収率	81.8%	87.5%	76.9%	79.8%

\*省庁大学校については、国立大学法人に含めて集計

## 保健師課程



## 助産師課程





# 看護師資格取得に関わる 実習科目の設置状況

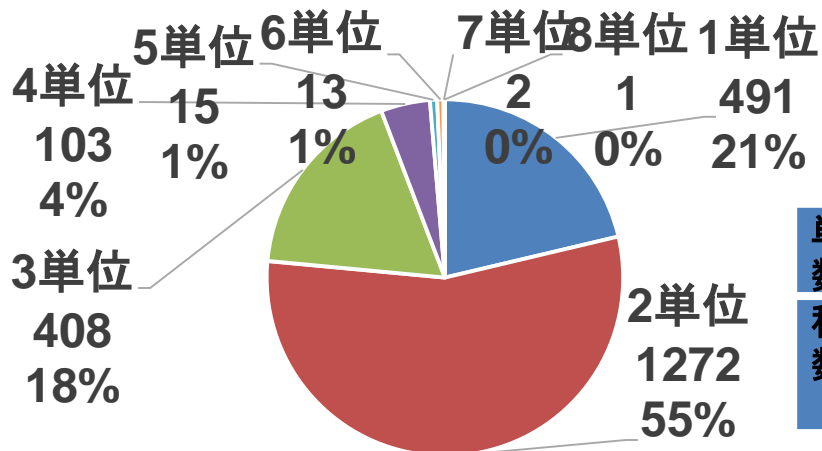
- 総実習科目数：2704科目（N=197）
- 看護師資格取得にかかわる科目：2306科目
- 1校当たり**平均11.7科目**

※保健師、助産師、養護教諭、高校教諭の資格に関する選択科目を除外  
**以下、看護師資格取得に関わる科目について分析**

- **総単位数：23単位から65単位、平均は24.8単位**

総単位数	23単位	24単位以上
大学数	115校	82校
%	58.1%	41.6%

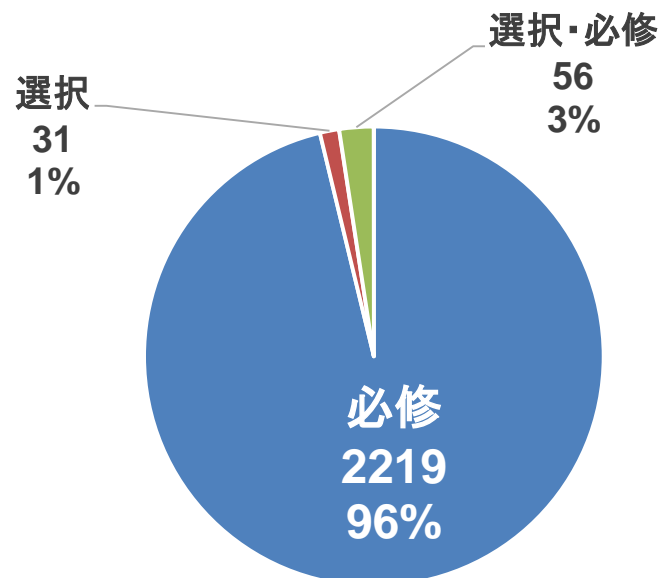
# 実習 1 科目あたりの単位数



単位数	1	2	3	4	5	6	7	8
科目数	491	1272	408	103	15	13	2	1
科目数 (%)	21.3	55.2	17.7	4.5	0.7	0.6	0.1	0.04

# 必修・選択の区分

必修・選択の区分	必修	選択	選択・必修
科目数	2219	31	56
(%)	(96.2)	(1.3)	(2.4)



# 実習の配当年次・学期

実習の配当年次 (N=2264)

配当年次	1年	2年	3年	4年	1-2年	3-4年
科目数 (%)	194 (8.6)	295 (13.0)	925 (40.9)	463 (20.5)	2 (0.1)	385 (17.0)

実習の配当年次 (N=2101)

配当年次	前期	後期	通年	後期-前期
科目数 (%)	556 (26.5)	993 (47.3)	224 (10.7)	328 (15.6)

# カリキュラム構造の類型化

## － 指定規則との比較から－

### カリキュラム構造の特徴 (N=197)

カリキュラム構造	① 指定規則に準ずる大学	② 特徴的な科目をもつ大学	③ 独自の構造で組み立てている大学
課程数(%)	144(73.1)	32(16.2)	21(10.7)

# A大学の例

科目名	単位数	必修・選択	配当年次
基礎看護学実習Ⅰ	2	必修	1年
基礎看護学実習Ⅱ	2	必修	2年
経過別看護援助実習Ⅰ	2	必修	3年
経過別看護援助実習Ⅱ	2	必修	3年
地域看護学実習	1	必修	3年
発達援助実習Ⅰ（老年看護）	2	選択・必修	3年
発達援助実習Ⅰ（小児看護）	2	選択・必修	3年
発達援助実習Ⅰ（母性看護）	2	選択・必修	3年
発達援助実習Ⅰ（精神看護）	2	選択・必修	3年
発達援助実習Ⅱ（老年看護）	2	選択・必修	3年
発達援助実習Ⅱ（小児看護）	2	選択・必修	3年
発達援助実習Ⅱ（母性看護）	2	選択・必修	3年
発達援助実習Ⅱ（精神看護）	2	選択・必修	3年
在宅看護実習	2	必修	4年
看護マネジメント実習	2	必修	4年
看護統合実習	1	必修	4年
ヘルスケアマネジメント実習	1	必修	4年

2領域4単位

2領域4単位

# B大学の例

科目群	科目名	単位数	必修・選択	配当年次
看護実践の基盤 看護の理解	基礎看護実習Ⅰ	1	必修	1年
	家庭訪問実習	1	必修	2年
	基礎看護実習Ⅱ	2	必修	2年
看護の発展 健康生活援助	地域看護実習	1	必修	3年
	育成期看護実習 (母性・小児)	4	必修	3年
	高齢者看護実習	3	必修	3年
看護の発展 療養生活援助	精神看護実習	2	必修	3年
	治療・回復過程看護実習	4	必修	3年
	在宅看護実習	3	必修	3年
看護の発展 総合看護	ヒューマンケアリング実習	2	必修	4年

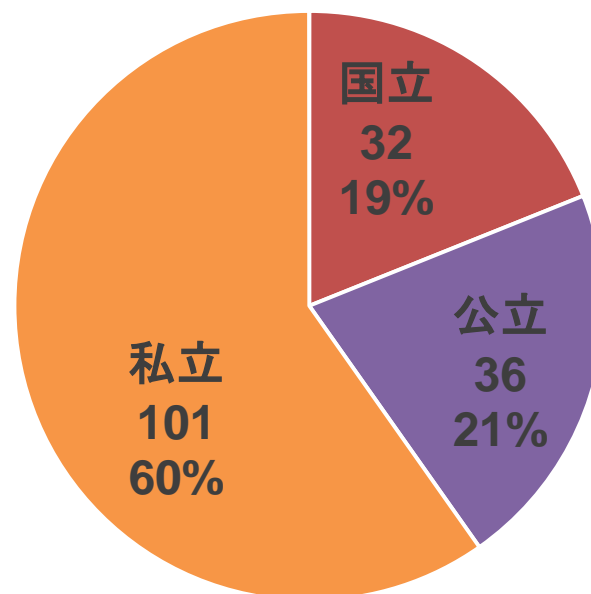
# 【Web調査結果】

## 1. 対象大学の概要

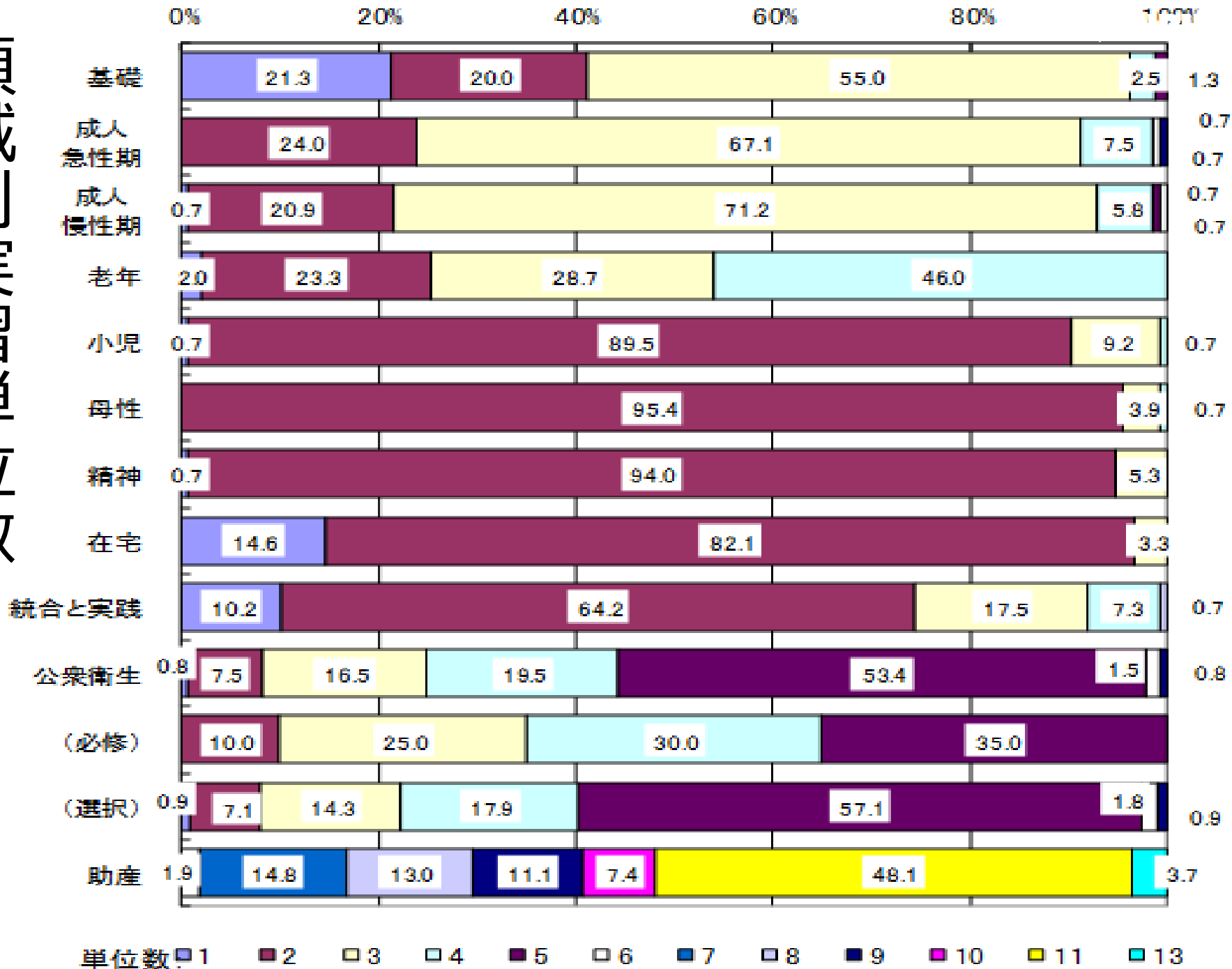
回答が得られた大学は**169**校で、回答率は**68.1%**であった。

回答校の概要は、設置主体は、私立が59.8%と多く、看護系大学設置年は、2000年以前が39.1%、2006～2010年が24.9%であった。回答者の立場は、学部長あるいは学科長、研究科長が半数以上を占めていた。

1学年の学生定員数は51～100人の大学が85.5%を占め、編入制度を有している大学が38.5%であり、3年次編入が多かった。大学院の設置の有無は、博士前期課程／修士課程を設置している大学が115校68.0%、博士後期課程を設置している大学が61校36.1%であった。

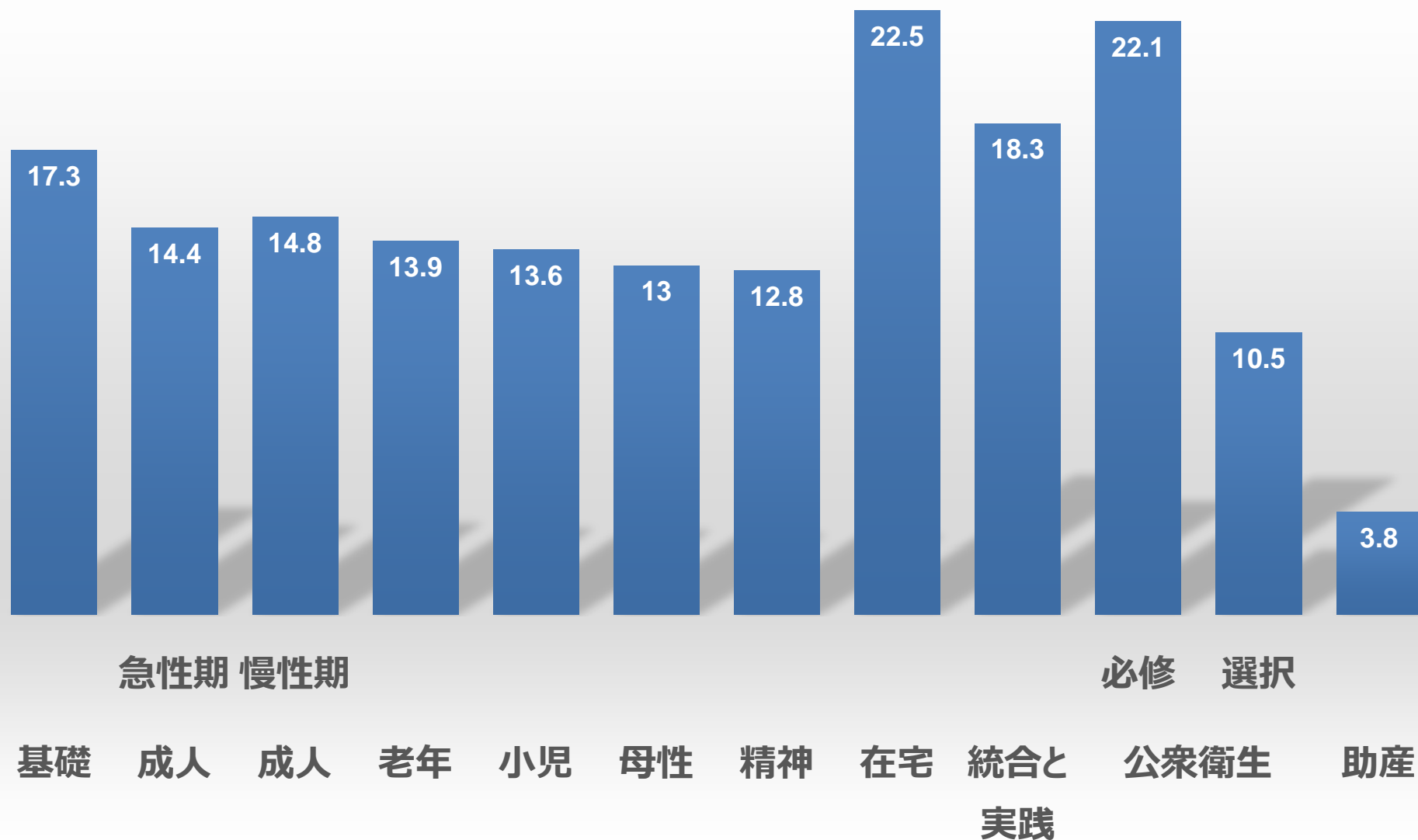


# 領域別実習単位数

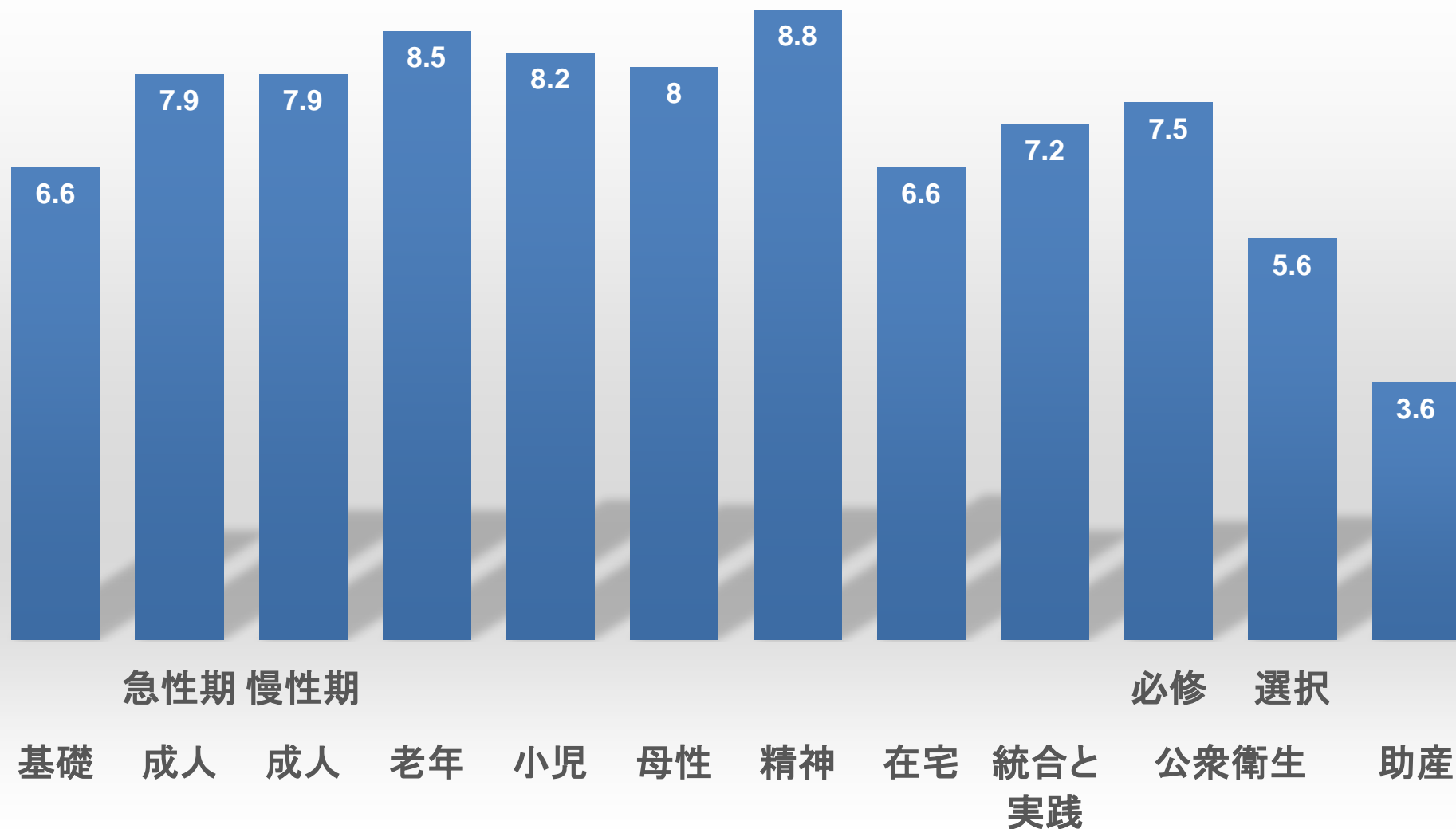




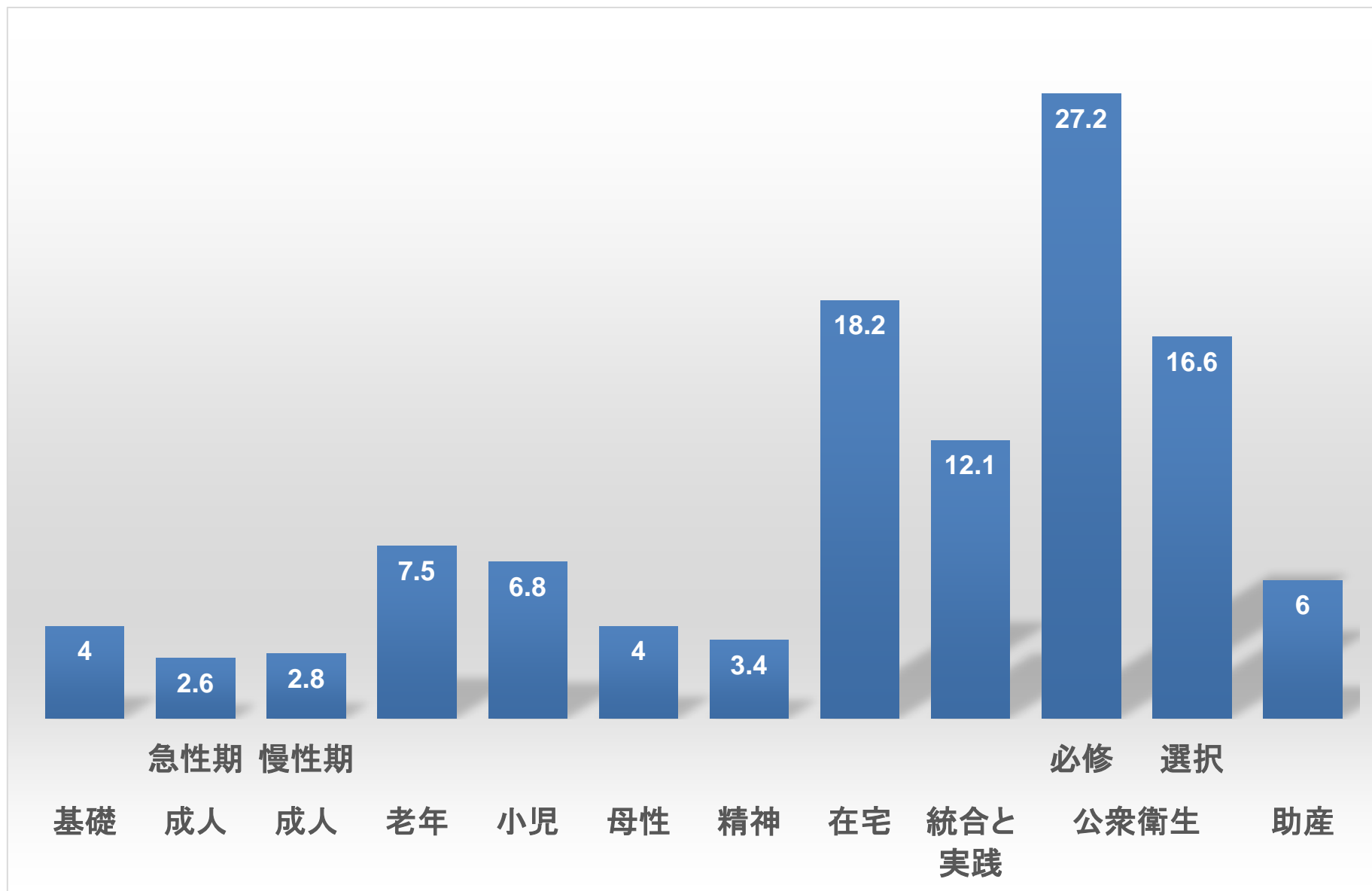
# 1学年グループ数



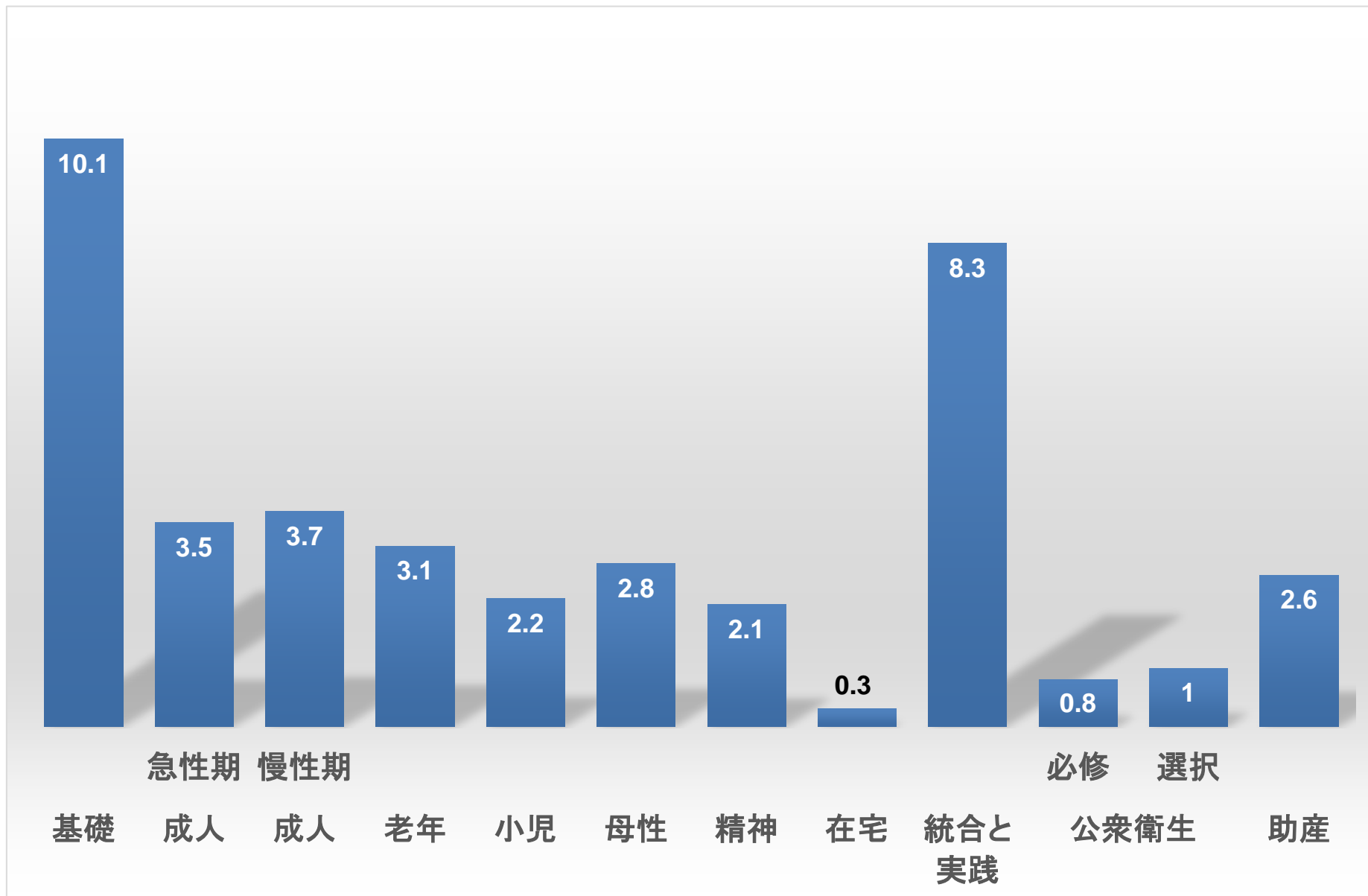
# 1グループあたり学生数



# 使用施設数



# 教員の指導体制(実習形態:常駐)(人)



## 教員

	基礎		成人 急性期		成人 慢性期		老年		小児		母性	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
思考の整理	158	98.8	143	97.3	136	97.8	148	98.0	149	96.8	150	98.0
日々の計画内容の調整	151	94.4	142	96.6	134	96.4	140	92.7	147	95.5	149	97.4
ケア実施の調整	132	82.5	132	89.8	125	89.9	128	84.8	134	87.0	139	90.8
ケアの指導(見守りを含む)	144	90.0	133	90.5	125	89.9	140	92.7	145	94.2	144	94.1
報告を受ける	138	86.3	129	87.8	121	87.1	133	88.1	138	89.6	134	87.6
ケアの振り返り	151	94.4	140	95.2	133	95.7	144	95.4	147	95.5	147	96.1
記録(看護計画)の確認	157	98.1	144	98.0	136	97.8	147	97.4	146	94.8	149	97.4
実習評価	158	98.8	144	98.0	136	97.8	148	98.0	147	95.5	149	97.4
カンファレンス	157	98.1	143	97.3	136	97.8	148	98.0	146	94.8	149	97.4
無回答	1	0.6	3	2.0	3	2.2	3	2.0	5	3.2	3	2.0
計	160	100	147	100	139	100	151	100	154	100	153	100

	精神		在宅		統合と実践		公衆衛生		助産	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
思考の整理	150	98.0	149	96.8	132	93.0	131	96.3	51	94.4
日々の計画内容の調整	143	93.5	102	66.2	117	82.4	111	81.6	49	90.7
ケア実施の調整	122	79.7	68	44.2	103	72.5	92	67.6	47	87.0
ケアの指導(見守りを含む)	142	92.8	47	30.5	98	69.0	95	69.9	44	81.5
報告を受ける	136	88.9	128	83.1	111	78.2	123	90.4	46	85.2
ケアの振り返り	148	96.7	135	87.7	120	84.5	122	89.7	48	88.9
記録(看護計画)の確認	150	98.0	147	95.5	132	93.0	130	95.6	51	94.4
実習評価	150	98.0	149	96.8	134	94.4	131	96.3	51	94.4
カンファレンス	149	97.4	145	94.2	134	94.4	132	97.1	51	94.4
無回答	3	2.0	5	3.2	7	4.9	4	2.9	2	3.7
計	153	100	154	100	142	100	136	100	54	100

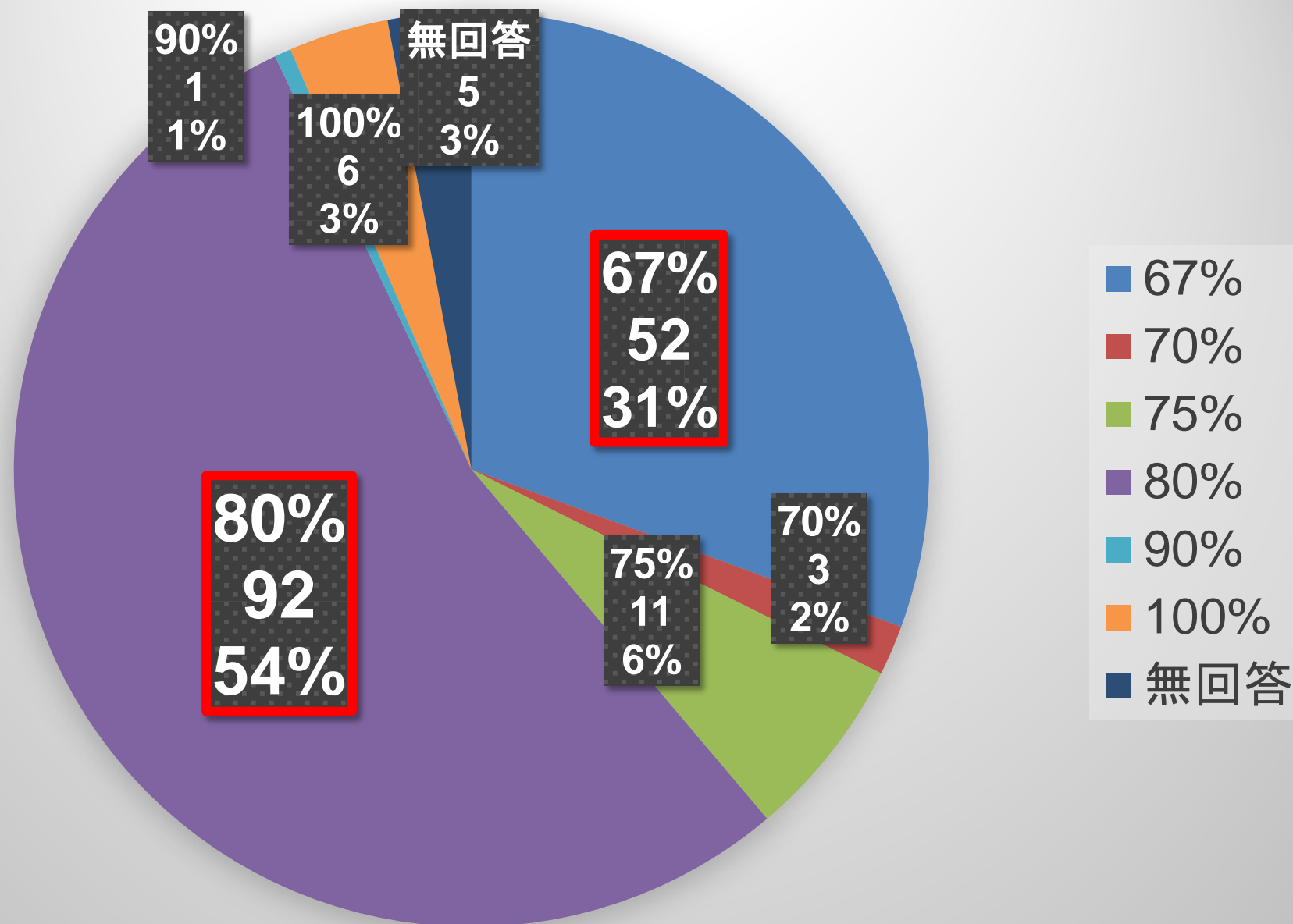
# 実習指導者

## 実習名

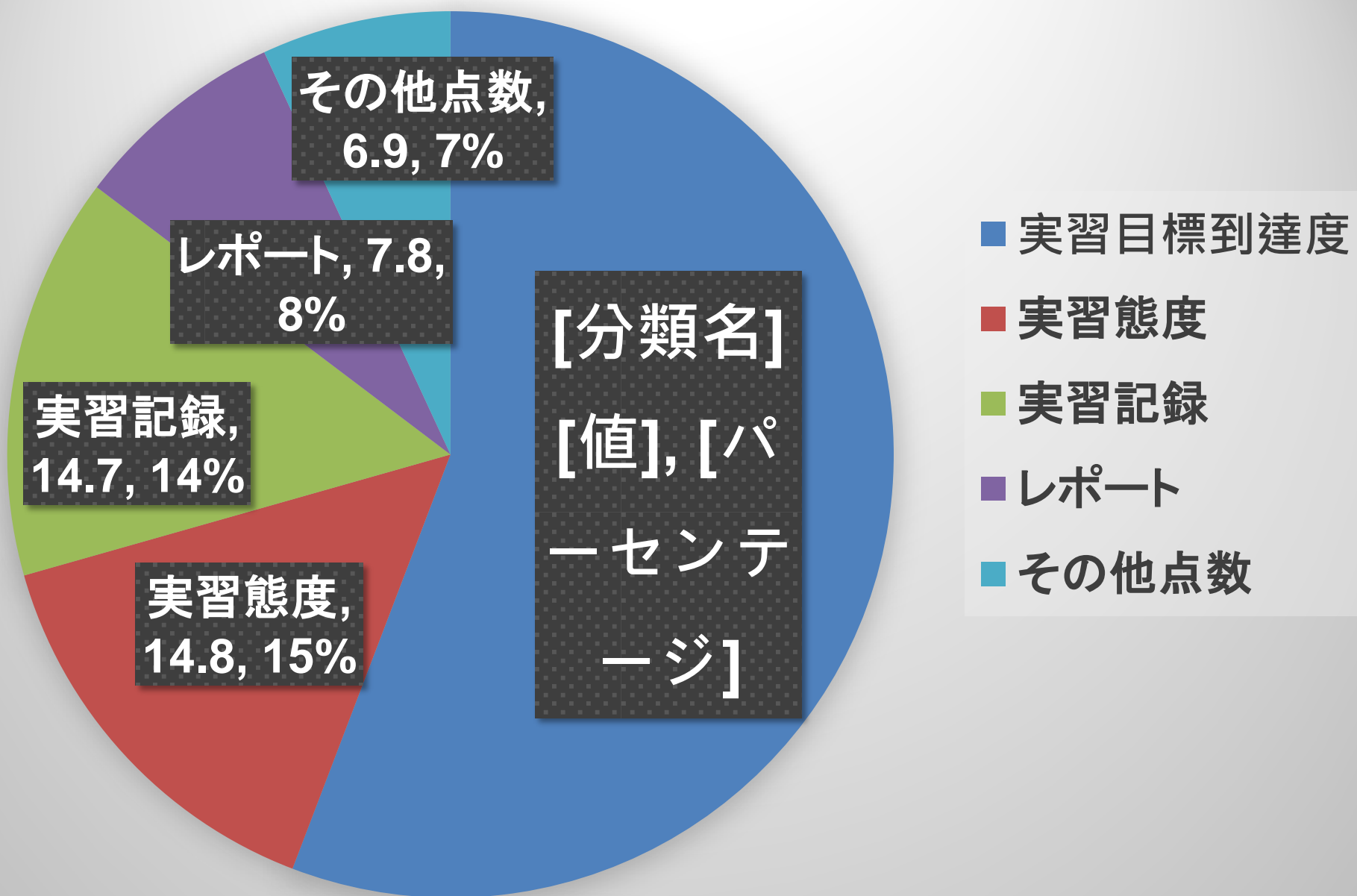
	基礎		成人急性期		成人慢性期		老年		小児		母性	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
思考の整理	82	51.3	81	55.1	74	53.2	77	51.0	84	54.5	84	54.9
日々の計画内容の調整	146	91.3	138	93.9	132	95.0	134	88.7	139	90.3	137	89.5
ケア実施の調整	148	92.5	141	95.9	134	96.4	139	92.1	144	93.5	145	94.8
ケアの指導(見守りを含む)	153	95.6	142	96.6	133	95.7	143	94.7	147	95.5	148	96.7
報告を受ける	155	96.9	141	95.9	135	97.1	147	97.4	146	94.8	148	96.7
ケアの振り返り	136	85.0	122	83.0	119	85.6	122	80.8	133	86.4	126	82.4
記録(看護計画)の確認	77	48.1	73	49.7	72	51.8	78	51.7	78	50.6	47	30.7
実習評価	31	19.4	40	27.2	37	26.6	37	24.5	32	20.8	24	15.7
カンファレンス	147	91.9	135	91.8	129	92.8	141	93.4	142	92.2	139	90.8
無回答	1	0.6	4	2.7	3	2.2	3	2.0	5	3.2	3	2.0
計	160	100	147	100	139	100	151	100	154	100	153	100

	精神		在宅		統合と実践		公衆衛生		助産	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
思考の整理	99	64.7	96	62.3	97	68.3	89	65.4	39	72.2
日々の計画内容の調整	139	90.8	145	94.2	133	93.7	125	91.9	50	92.6
ケア実施の調整	145	94.8	145	94.2	133	93.7	122	89.7	51	94.4
ケアの指導(見守りを含む)	145	94.8	146	94.8	133	93.7	127	93.4	52	96.3
報告を受ける	149	97.4	142	92.2	134	94.4	124	91.2	50	92.6
ケアの振り返り	134	87.6	137	89.0	123	86.6	119	87.5	51	94.4
記録(看護計画)の確認	96	62.7	113	73.4	81	57.0	120	88.2	33	61.1
実習評価	37	24.2	56	36.4	39	27.5	54	39.7	33	61.1
カンファレンス	145	94.8	143	92.9	126	88.7	127	93.4	49	90.7
無回答	3	2.0	5	3.2	7	4.9	4	2.9	2	3.7
計	153	100	154	100	142	100	136	100	54	100

## 単位取得に必要な出席割合(%)



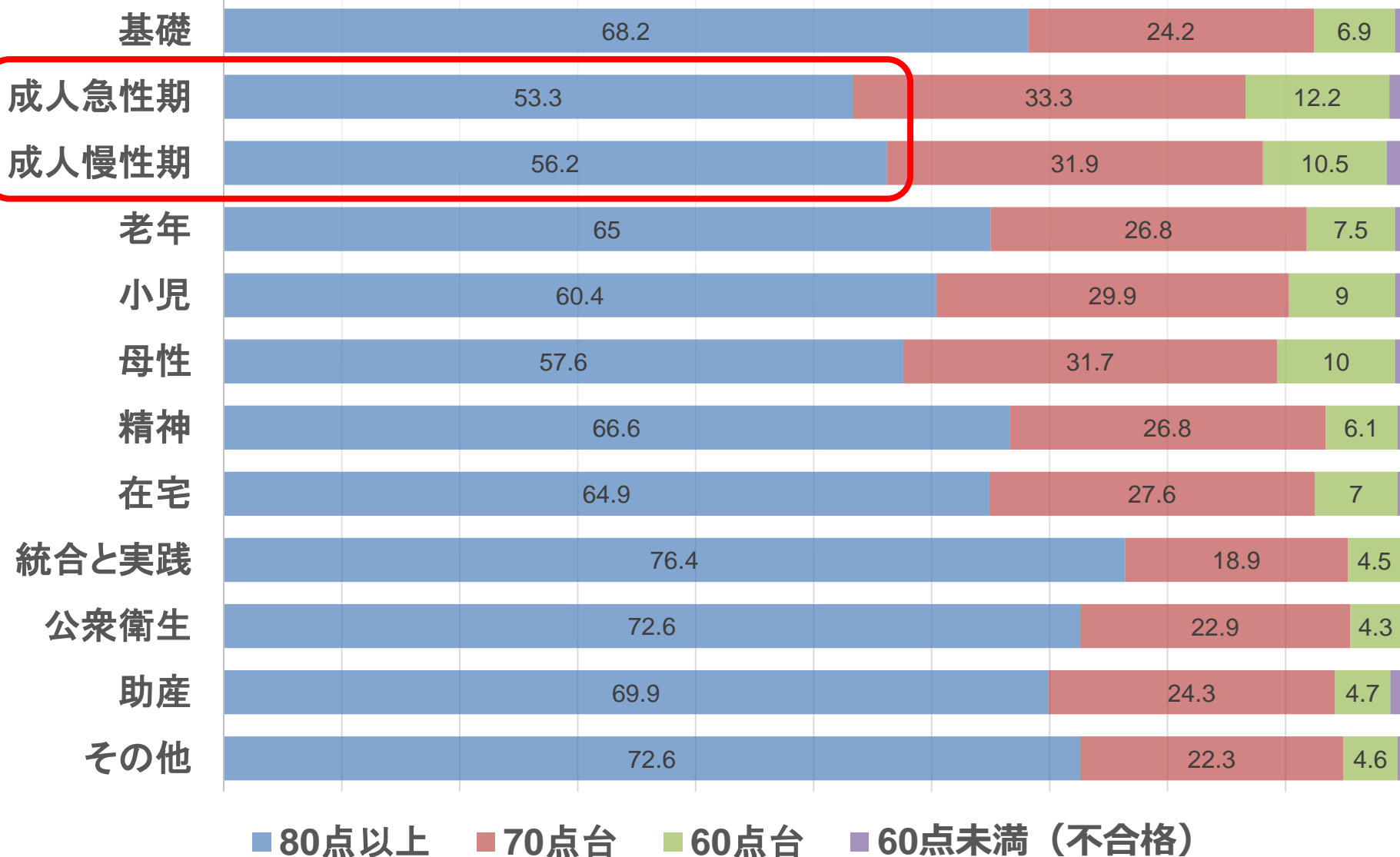
# 単位認定に際しての成績評価の点数配分





# 実習の目標達成状況

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



# 学生の主体的・自立的な能力を伸ばすための実習の工夫

## 1. 実習への動機づけ

- ・事前課題 ・実習につなげる演習  
(シミュレーション学習によるトレーニング等)

## 2. 実習前の準備

- ・実習前看護技術チェック ・自己練習 ・実習課題の明確化

## 3. 学生自身による活動の促進

- ・受け持ち患者の選定 ・実習の説明/依頼/同意
- ・カンファレンスの企画/運営等

## 4. 実習グループを活用した学習の共有

## 5. 実習後の自己の振り返り

- ・自己課題の明確化の促進 ・次の実習へつなげる働きかけ

## 6. その他

- ・看護技術自己評価表の活用 ・ポートフォリオの活用

# 実習における受け持ち対象者のインフォームドコンセントについて

「説明文書を用いて実習内容・方法を説明し、文書で同意を得ている」への回答が殆どを占めていたが、「口頭で実習内容・方法を説明し、口頭で同意を得ている」という実習も68.6%みられた。

説明文書を用いて実習内容・方法を説明し、文書で同意を得ている

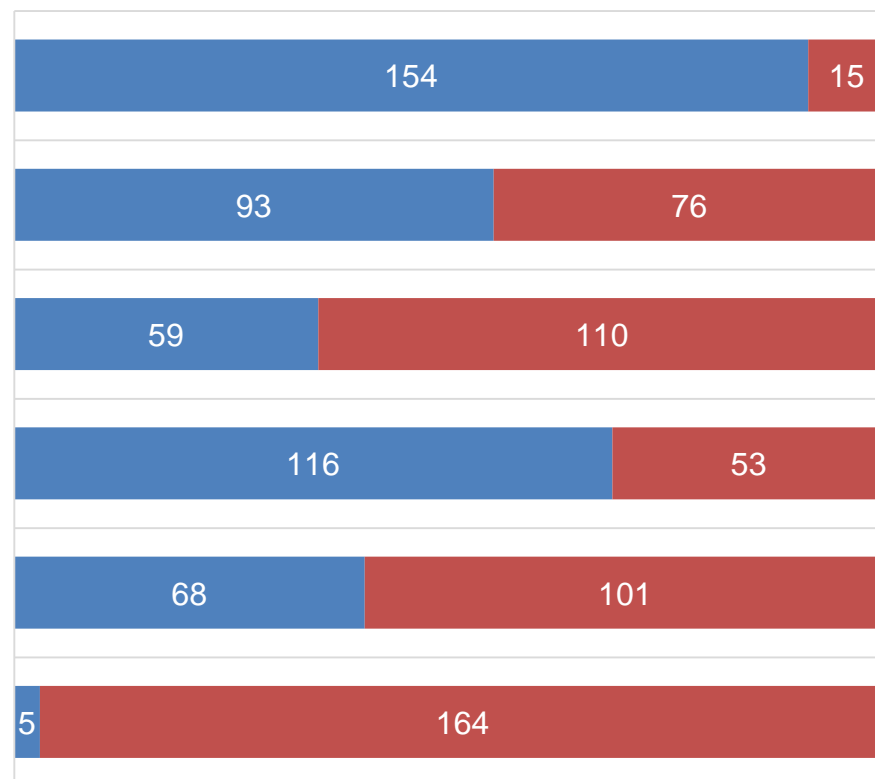
説明文書を用いて実習内容・方法を説明し、口頭で同意を得ている

口頭で実習内容・方法を説明し、文書で同意を得ている

口頭で実習内容・方法を説明し、口頭で同意を得ている

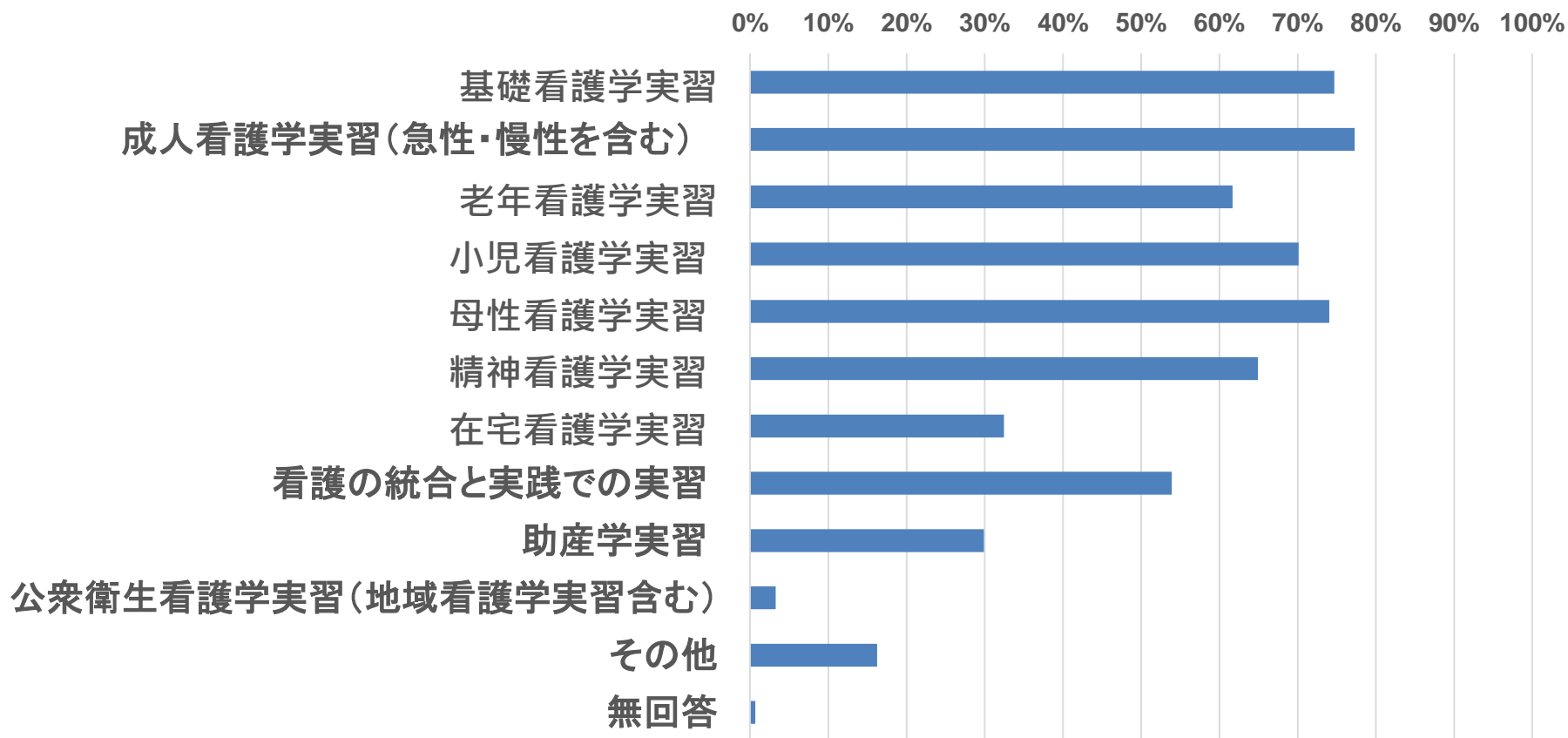
その他

無回答



# 実習における受け持ち対象者の インフォームドコンセントについて

実習の領域別にみると、病院で実習をしていると思われる領域は文書での同意を得ている割合が60%以上であるが、助産学実習、在宅看護学実習などでは、文書での同意を得ているのは30%程度であった。



# 実習で受け持つ対象者の個人情報保護について (複数回答)

	のべ度数	%
対象者の個人情報保護に関する事項について誓約書を学生に書かせている	154	91.1
対象者の個人情報保護に関する事項について実習要項に入れている	163	96.4
対象者の個人情報保護に関する事項について講義とは別に説明する機会をもっている	155	91.7
ある科目の講義の中で、対象者の個人情報保護に関する事項について説明している	120	71.0
実習オリエンテーションで説明している	21	12.4
その他	21	12.4
無回答	3	1.8
計	169	

# 実習施設とのよりよい連携のために行っていること

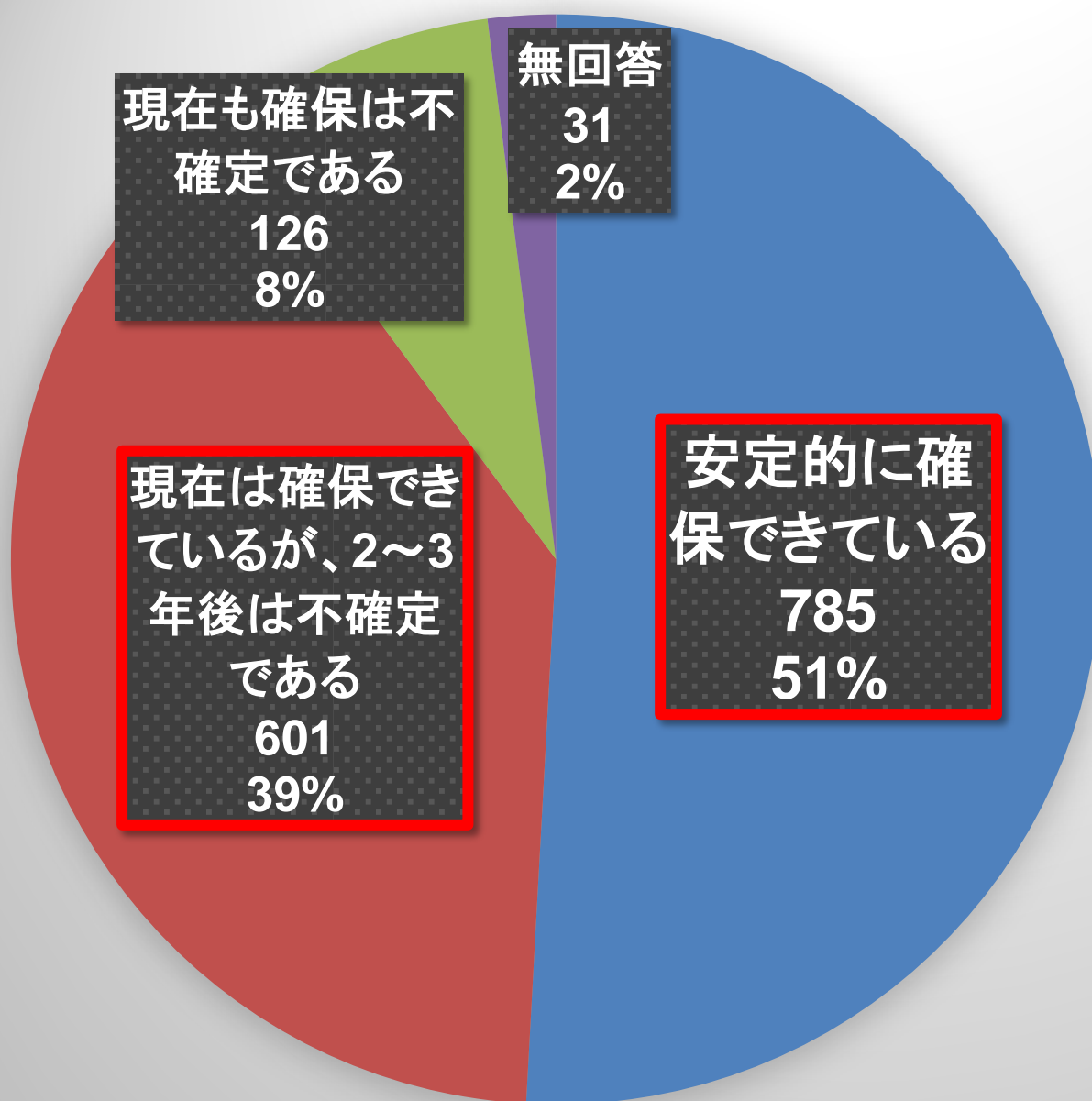
実習環境を整えるため、ほとんどの大学は実習施設との連携について努力していた。約90%の大学は実習施設と大学全体で行う全体会議を実施し、大学の教育方針、教育目標、課題を共有していた。

連携の主なものとして、①人的交流（大学から施設への講師派遣/施設から大学への講師派遣/交流会等）、②実習施設の活動支援（研究支援、臨床事例スーパーバイズ、施設行事への参加等）、③実習環境を整えるための連携（実習連絡会、教育や学生指導についての勉強会等）、④施設看護職のキャリア支援（講義聴講、様々な研究会の開催、大学院進学促進等）

、⑤連携システムの整備と活用（臨床教員制度、施設内講座設置、ユニフィケーション制度等）、⑥学生就職支援（就職セミナー開催、情報交換等）があった。

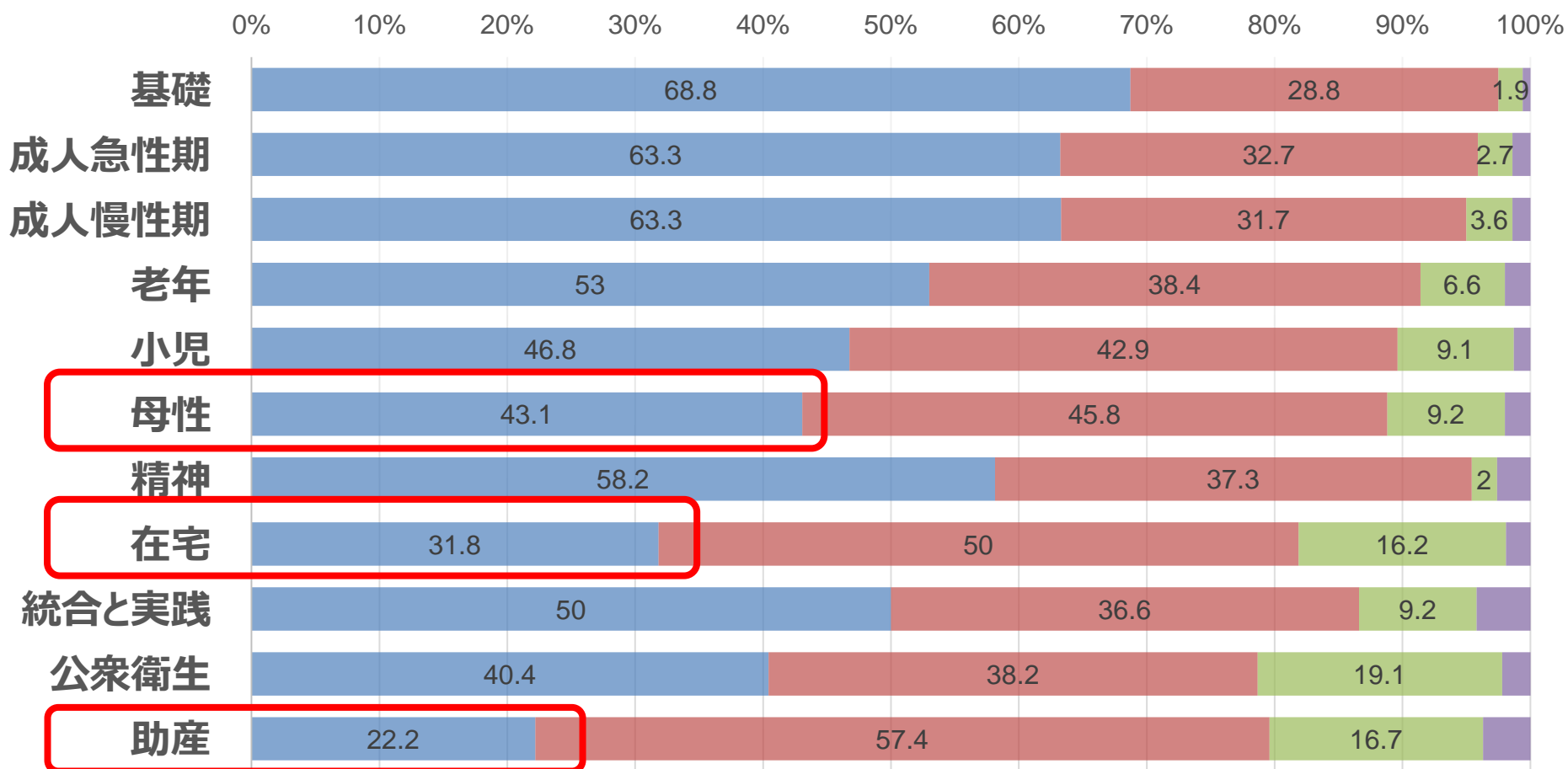
	度数	%
大学から実習施設への講師派遣	147	87.0
施設から大学への講師派遣	142	84.0
実習指導研修会	123	72.8
共同研究の実施	119	70.4
総合的な教育体制の検討	83	49.1
臨床教員制度の活用	68	40.2
その他	61	36.1
無回答	5	3.0
計	169	100.0

# 実習施設の確保状況



- 安定的に確保できている
- 現在は確保できているが、2～3年後は不確定である
- 現在も確保は不確定である
- 無回答

# 領域別実習施設の確保状況



- 安定的に確保できている
- 現在は確保できているが、2～3年後は不確定である
- 現在も確保は不確定である
- 無回答



# 実習の問題・課題

	n	%
実習時間不足	89	7.3
実習時期・日程の調整	414	34.2
実習施設の確保が困難	422	34.8
実習施設が遠い	575	47.5
多数の実習施設を使用しなければならない	646	53.3
実習指導非常勤教員・TAの確保	622	51.4
実習施設と実習に関する協議が十分にできない	67	5.5
実習施設の実習協力体制が整わない	124	10.2
実習施設の職員から十分な指導が得られない	167	13.8
実習に適した対象者が少ない	422	34.8
学生の受け持ちについて患者・家族の同意が得にくい	182	15.0
学内技術演習と施設のケア技術に乖離が見られる	108	8.9
実習のために宿泊しなければならない	232	19.2
実習費用について	159	13.1
その他	146	12.1
無回答	13	1.1
計	1211	

# 実習領域別課題

実習時間不足

実習時期・日程の調整

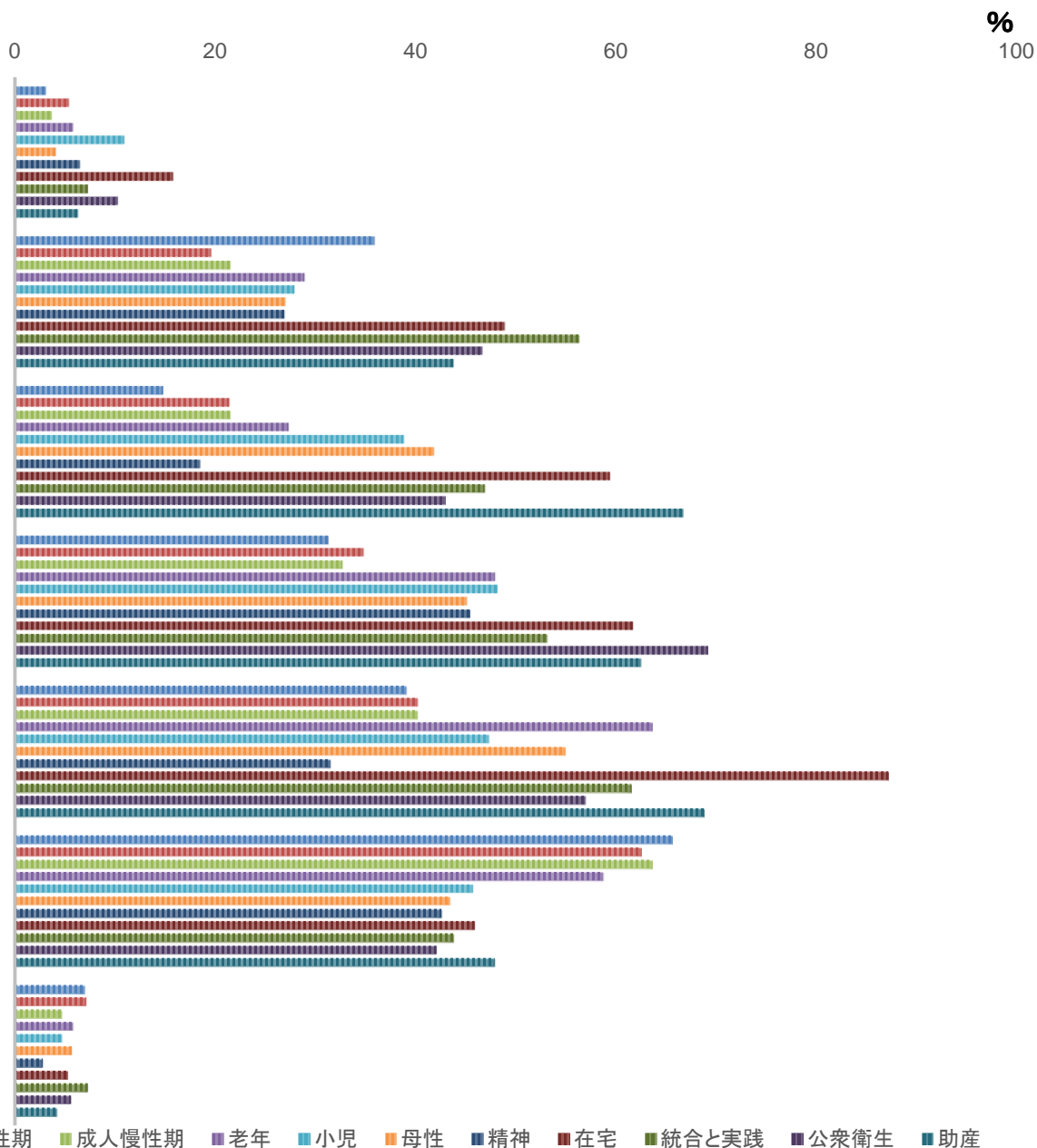
実習施設の確保が困難

実習施設が遠い

多数の実習施設を使用しなければならぬ

実習指導非常勤教員・TAの確保

実習施設と実習に関する協議が十分にできない



# 実習領域別課題

%  
80

実習施設の職員から十分な指導  
が得られない

実習に適した対象者が少ない

学生の受け持ちについて患者・  
家族の同意が得にくい

学内技術演習と施設のケア技術  
に乖離が見られる

実習のために宿泊しなければな  
らない

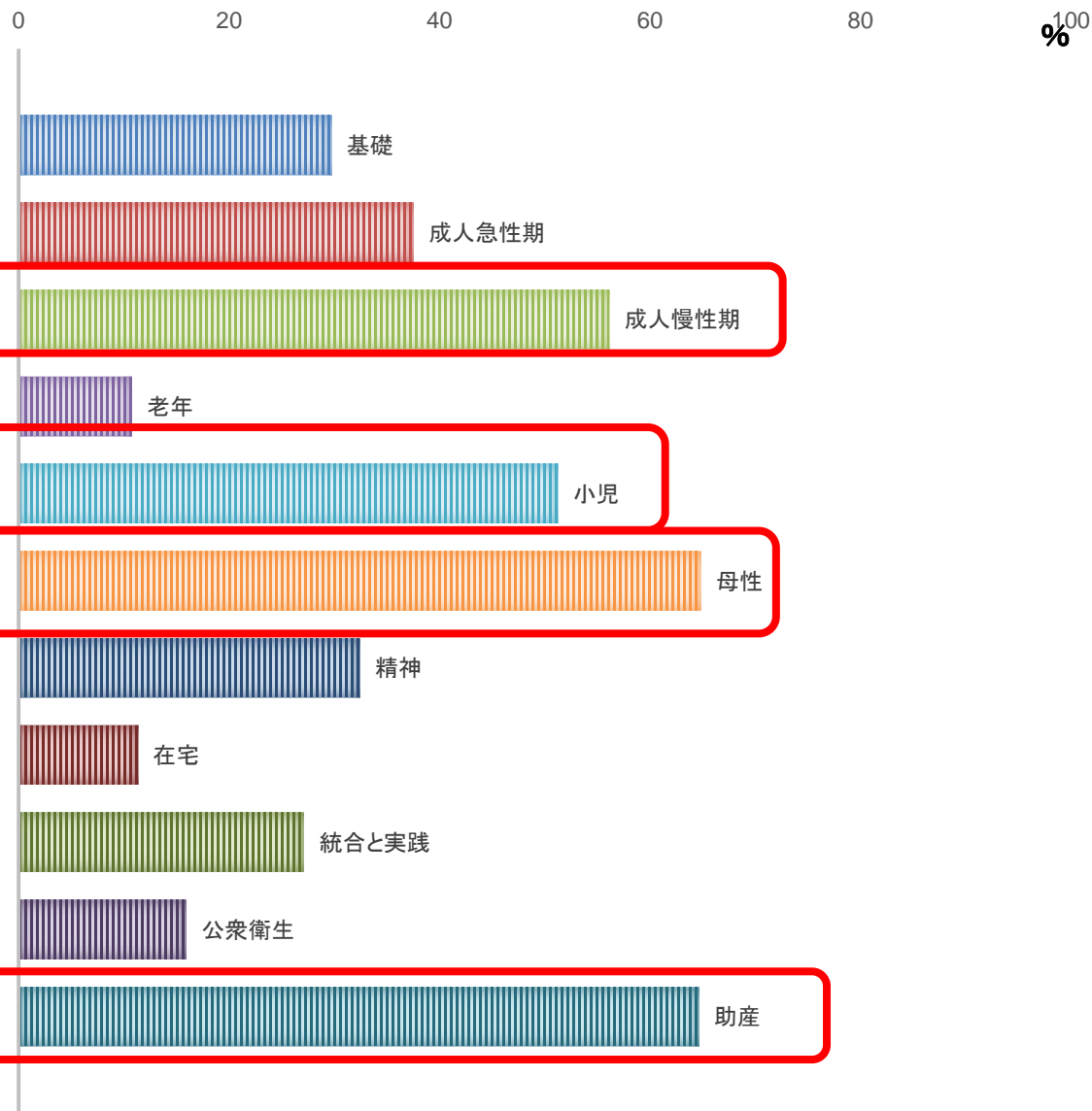
実習費用について

その他



■ 基礎 ■ 成人急性期 ■ 成人慢性期 ■ 老年 ■ 小児 ■ 母性 ■ 精神 ■ 在宅 ■ 統合と実践 ■ 公衆衛生 ■ 助産

# 実習領域別実習の課題 (実習に適した対象者が少ない)



実習に適した対象者が少ない

# 新たに開拓しようと考えている実習施設

病院	23	小学校	1
地域包括ケア病棟・病床	4	保育所等	4
療養病床	2	特別支援学校	1
病院の地域連携室	5	障がい児施設等	9
診療所	4	精神障がい者支援施設等	13
高齢者施設等	25	産業保健	7
地域包括支援センター	15	地域生活支援団体・機関	4
訪問看護	8	当事者団体、患者会・家族会	3
母親・育児支援施設	4	学校	3
母性・助産看護学実習施設	8	近隣の実習施設	4
助産所	2	実習施設数を増やす	1
女性が働く場	1		

## 実習における倫理的配慮の課題

- ＜実習への同意を得ること＞
- ＜実習記録の管理＞
- ＜実習場面での倫理的問題に対する対応＞

## 実習における個人情報保護、守秘義務に関する課題

- ＜個人情報保護や守秘義務に関する教育への具体的取り組み＞
  - ・指導/注意喚起
  - ・受け持ちの匿名化
  - ・記録の管理
- ＜学生の個人情報の取り扱いに対する意識やモラルの低さ＞
- ＜SNS等による学生同士における安易な実習状況の情報共有＞
- ＜個人情報の取り扱いに伴うインシデントの発生＞
- ＜指導をしても遵守できない学生への教育の困難さや限界＞
- ＜個人情報保護に伴う制約からの学びの積み重ねや共有ができない困難さ＞

## 実習における電子カルテ活用に関する課題

- ・情報収集の困難さ ・情報管理に関する課題
- ・情報収集に重きをおきベッドサイドに行かないなどの看護実践に関する課題

## 実習における感染対策の課題

### <実習前>

- ・予防接種を推奨する ・実習前に抗体価検査を行う
- ・学生に健康の自己管理を促す

### <実習中>

- ・感染予防行動の注意喚起
- ・学生が感染症に罹患したら実習グループごと実習を中止する

### <その他>

- ・実習施設により感染症対応に差がある
- ・学生の予防接種の費用負担が大きい
- ・実習中止時の補習や再実習の調整が困難である

## 教員の実習対応時間についての課題

実習による拘束・過重労働	76
教員不足・実習体制不備	24
教員の疲労	6
対応	12

教員の実習対応時間についての課題では、実習指導での**拘束時間の長さ**、**過重労働**であることが多くあげられていた。授業や学内運営、大学院教育などと**掛け持ち**し、研究活動を行う時間がないことが示されていた。拘束時間が長い理由には、学生指導に時間を要すること、**施設側の要望**であることや実習施設が**遠隔地**であることなどが述べられていた。**教員不足**や**体制が不十分**であることが実習指導の質に影響し、**教員の疲労**も指摘された。今後の対応として、非常勤指導者を確保すること、教員を増すこと、**臨地実習指導者**を配置することなどがあげられていた。



# 実習施設に支払う実習費についての課題

支払い実習費が安い	22
実習費算定根拠	10
実習種類による差が大きい	7
実習施設による差が大きい	10
実習費の標準額が不明	12
実習費の値上がり	13
実習費の取り扱い方	2
今後の対応	7

# 実習において看護ケアを提供することの課題

対象者の選定が困難	26
体制(実習のやり方)	29
目標達成状況	11
学生が抱える課題	32
臨地実習指導者への要望と問題	6
現場のナースとの問題	3
実習施設側の要因	8
患者側の要因	3
実習科目による問題	17

103校から記述があった。

## ＜実習体制＞

- ・見学実習になっている。理由は患者の重症度が高くなり、浸襲を伴うケアが増えたことや在宅ケアの難易度も高まったこと、さらにリスク回避のため直接ケアの機会が減少していることなどが記述されていた。

- ・実習の安全を求められ「事前学習」も十分でない

## ＜目標達成状況＞

- ・めざすものとの乖離がある

## ＜学生が抱える問題＞

- ・学生の「人間関係」力の低下

- ・「実践力、能力」の低下

- ・実習への「意欲、態度」が十分でない

まとめると、実習が見学実習になり、学生の実践力を身につけるものになっていないことが課題としてあげられた。それには実習の場における在院日数の減少、浸襲を伴うケアや複雑な問題が増えたこと、事故防止を重視すること、実習体制の課題、大学と施設との関係性にかかわる課題、学生自身の課題など多くの要因が絡み合っている。

# まとめ

1. 保健師課程は大部分が選択制、助産師教育課程（選択制）は、半数以上の国公立大学が設置
2. 約 7 割の大学は指定規則の枠組みに準じている。
3. 総単位数：23～65単位と幅がある。  
学年を跨いでの実習の設定→実習ローテーション、実習場所との調整の難しさ
4. 看護学教育において重要な位置を占める実習教育では、主体的・自立的な人材の育成をめざして様々な工夫をしている
5. 実習施設の確保が難しい
  - ・実習施設、特に病院以外の実習施設の確保が難しい
  - ・遠隔地にある実習施設を使用しなければならない
  - ・小児、母性、助産、在宅実習領域での実習施設の確保が難しい
  - ・地域生活支援を学習するための実習施設の開拓が必要
6. 実習対象者の確保が難しい
  - ・特に、成人慢性期、小児、母性、助産、の実習領域の対象者確保が難しい
7. 指導教員の不足、多忙、疲労

# 看護系大学における 看護学教育カリキュラムについて

1. これまでの発達を基盤とする看護教育の枠組みでは、実習施設の確保、実習対象の確保に限界がある。実習に限らず、カリキュラム構造の抜本的見直しが必要。
2. 地域包括ケアへという概念に対応していくことの必要性、変革する医療提供体制に対応していること、を踏まえるならば、新たなカリキュラム構造の構築、それに伴う実習のあり方が必要となる。
3. 看護教員のカリキュラム開発に関する能力の向上が必要。
4. カリキュラム開発、教育力向上のための大学院教育、FDプログラムが必要